

センター)の率が高かったが、これらの機関からの家族会への紹介は少なかったことから、今後の地域ネットワークづくりを考える際には、これら機関が家族支援の重要性を再認識し家族支援対策を充実すること、家族支援機関との連携強化に努めることなどが求められる。また、地域における家族支援の役割が期待される精神保健福祉センターは、家族が初期に利用する率が低かった。精神保健福祉センターには、家族に対する直接的支援の充実が求められており、様々な取り組みも行われているが<sup>5)6)</sup>、その他に、支援の具体的な方策を地域の保健所(保健センター)や医療機関におろす間接的支援の役割も期待されており、その存在は重要である。

### 3) 当事者活動としての家族会の評価

上記の家族の関係機関利用と同様に、未治療の本人を抱えた家族が早期に家族会に参加することは、本人の治療開始を早めることが示唆されており、少なくとも本人の治療への導入という観点からみた場合、家族の家族会参加は有効であると評価できる。

また、家族会参加期間別に主観的幸福感を比較した結果、家族会参加期間が長くなるとともに低かった陽性感情が改善しており、家族会への参加が家族の心的回復に役立っていることが示唆された。

依存症者をもつ家族が経験する様々な対応困難な場面をいくつか設定し、家族会参加以前と以降でその対応がどう変化するかを検討した結果、その対応には明確な変化が認められた。その変化からは、「家族は本人を家から出し、薬物問題が落ち着くまで直接的には関わらない。」「本人の問題は全て本人に返し、家族が代わりに責任を負うことはしない。」という家族会の強い方針がうかがえる。

これら基本方針の実践が未治療の本人の治療導入に役立っていることが推測されるが、本人の回復の全てを一時期他者に委ね、本人との関係が断絶された中で、その期間に家族は依存症に関する知識を身につけるとともに、共依存傾向や過干渉といった家族の側の問題に取り組むというこのようなシンプルな方法論には異論の声もある。本人の回復の過程の多くに再使用があるように、家族の本人への関わりにも度々誤った対応の繰り返し

があり、そのことを十分理解した上で家族関係を保ちながら、その関係性の中で双方の回復を支援することが望ましいとする考えがあり、欧米では家族を本人の回復に有効な資源としてどう取り組むかという取り組みも行われている<sup>7)</sup>。実際、重複障害をもつ依存症者については、家族がその複雑な病理を理解し、本人の病状に応じてそれぞれの目指すゴールに家族としてどこまで援助するかを決定する長い過程が必要であるし、また、若年の依存症者に関しては、養育者として家族の関わりはより重要であり、関係を保ちながら双方の支援を行うことが、本人の回復という観点からも、家族機能の早期修復という観点からも望ましいことが多々あろう。

要は全てのケースに唯一最善の方法はなく、その中で当事者家族にできることを、できる方法で懸命に行っているというのが現状であると思われる。その中で、家族と本人の双方を同時に支援する方法を取り入れていくには、全てを当事者家族に委ねるのではなく、医療、心理、精神保健、福祉等の専門家がそれぞれの専門性を生かしながら、複雑に交錯する家族力動の中に位置する依存症という障害を理解し、その全体的改善に取り組むことが求められる。その際に重要になるのは、専門家と当事者家族が互いにその専門性と経験を尊重し、双方の可能性と限界を謙虚に受け止め、どう連携できるかその方向性を模索することであらう。

### 4) 今後の課題

本調査は一時点の横断調査であり、得られた多くの結果は、調査対象である家族会に適合せず早期にもれ落ちた家族を除外していることによるバイアスを受けている可能性がある。今後継続調査を行うことで、早期にもれ落ちる家族の特徴を理解し、それを併せて調査結果を再度吟味することで、研究精度を高めることに努めたい。また、今回は未治療の本人の治療導入という一視点でのみ関係機関や家族会の有効性を評価したが、今後は本人の良好な予後と家族支援の関係性についても検討することが重要である。

### E. 結論

本調査により、依存症者をもつ家族およびダブル家族会を中心とした当事者活動の実態をある程

度把握することができた。また、これらの活動や家族の関係機関利用が、本人の依存症治療導入に役立っていることが示されるとともに、依存症の回復を支える地域ネットワークづくりにおける新たな課題も示された。今後は、これらの当事者活動が本人の予後に与える影響を明確にすることが必要である。

## 謝辞

本調査に多大なご協力をいただきました全国薬物依存症者家族連合会調査部の小松崎未知氏ならびに家族会の皆さまには心より厚くお礼を申し上げます。

## F. 研究発表

なし

## G. 参考文献

- 1) 菊池亜希子, 和田清: 物質依存症の当事者家族への対応—茨城ダルク家族会の活動を中心に—, 精神科治療学, 19(12), 1419-1426, 2004
- 2) 大野裕, 吉村公雄: WHO SUBI (The Subjective Well-being Inventory) 手引き, 株式会社金子書房, 2001
- 3) 国勢調査 (最終学歴) <http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2000/kihon2/00/zuhyou/a012.xls>
- 4) 国勢調査 (職種) <http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2000/kihon3/00/zuhyou/k00a001.xls>
- 5) 佐藤久美子, 青柳歌織, 高橋孝子, 飯島羊子, 三井敏子: 薬物依存症の家族教室を实践して. 埼玉県立精神保健総合センター研究紀要, 1997
- 6) 下野正健: 薬物依存に関する地域プログラムの検討, 平成11年度厚生科学研究補助金医薬安全総合研究事業「薬物依存・中毒者のアフターケアに関する研究」報告書, 2000
- 7) Meyers, R.J., Miller, W.R., Hill, D.E. et al.: Community reinforcement and family training (CRAFT): engaging unmotivated drug users in treatment, Journal of Substance Abuse, 10, 291-308, 1998

表1. 対象者の性別および年齢

家族会名称	年齢	性別			合計
		男性 度数 (%)	女性 度数 (%)	無回答 度数 (%)	
びわこ家族会	10代	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	20代	0 (0)	2 (6.9)	0 (0)	2 (5.4)
	30代	1 (12.5)	1 (3.4)	0 (0)	2 (5.4)
	40代	1 (12.5)	5 (17.2)	0 (0)	6 (16.2)
	50代	3 (37.5)	15 (51.7)	0 (0)	18 (48.6)
	60代	3 (37.5)	5 (17.2)	0 (0)	8 (21.6)
	70代以上	0 (0)	1 (3.4)	0 (0)	1 (2.7)
	無回答	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	合計	8 (100.0)	29 (100.0)	0 (0)	37 (100.0)
平均年齢	53.8 (SD=11.2)	53.0 (SD=9.8)		53.2 (SD=10.0)	
愛知家族会	10代	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	20代	1 (6.3)	0 (0)	0 (0)	1 (2.3)
	30代	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	40代	0 (0)	4 (14.8)	0 (0)	4 (9.3)
	50代	6 (37.5)	12 (44.4)	0 (0)	18 (41.9)
	60代	8 (50.0)	10 (37.0)	0 (0)	18 (41.9)
	70代以上	1 (6.3)	1 (3.7)	0 (0)	2 (4.7)
	無回答	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	合計	16 (100.0)	27 (100.0)	0 (0)	43 (100.0)
平均年齢	59.3 (SD=11.6)	57 (SD=6.5)		57.8 (SD=8.7)	
茨城ダルク家族会	10代	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	20代	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	30代	1 (7.1)	1 (2.8)	0 (0)	2 (3.8)
	40代	1 (7.1)	2 (5.6)	0 (0)	3 (5.8)
	50代	8 (57.1)	21 (58.3)	0 (0)	29 (55.8)
	60代	4 (28.6)	12 (33.3)	1 (50.0)	17 (32.7)
	70代以上	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	無回答	0 (0)	0 (0)	1 (50.0)	1 (1.9)
	合計	14 (100.0)	36 (100.0)	2 (100.0)	52 (100.0)
平均年齢	55.4 (SD=7.8)	56.4 (SD=6.6)	64	56.3 (SD=6.9)	
宇都宮家族会	10代	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	20代	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	30代	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	40代	0 (0)	1 (5.6)	0 (0)	1 (3.0)
	50代	3 (21.4)	10 (55.6)	0 (0)	13 (39.4)
	60代	8 (57.1)	6 (33.3)	1 (100.0)	15 (45.5)
	70代以上	3 (21.4)	1 (5.6)	0 (0)	4 (12.1)
	無回答	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	合計	14 (100.0)	18 (100.0)	1 (100.0)	33 (100.0)
平均年齢	63.9 (SD=5.5)	58.6 (SD=6.2)	66.0	61.1 (SD=6.3)	
仙台ダルク家族会	10代	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	20代	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	30代	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	40代	1 (14.3)	2 (15.4)	0 (0)	3 (14.3)
	50代	4 (57.1)	7 (53.8)	0 (0)	11 (52.4)
	60代	2 (28.6)	3 (23.1)	0 (0)	5 (23.8)
	70代以上	0 (0)	1 (7.7)	0 (0)	1 (4.8)
	無回答	0 (0)	0 (0)	1 (100.0)	1 (4.8)
	合計	7 (100.0)	13 (100.0)	1 (100.0)	21 (100.0)
平均年齢	56.3 (SD=5.1)	56.5 (SD=7.3)		56.4 (SD=6.5)	
家族会合計	10代	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	20代	1 (1.7)	2 (1.6)	0 (0)	3 (1.6)
	30代	2 (3.4)	2 (1.6)	0 (0)	4 (2.2)
	40代	3 (5.1)	14 (11.4)	0 (0)	17 (9.1)
	50代	24 (40.7)	65 (52.8)	0 (0)	89 (47.8)
	60代	25 (42.4)	36 (29.3)	2 (50.0)	63 (33.9)
	70代以上	4 (6.8)	4 (3.3)	0 (0)	8 (4.3)
	無回答	0 (0)	0 (0)	2 (50.0)	2 (1.1)
	合計	59 (100.0)	123 (100.0)	4 (100.0)	186 (100.0)
平均年齢	58.4 (SD=9.3)	56.0 (SD=7.6)	65 (SD=1.4)	56.9 (SD=8.2)	

表2. 対象者の最終学歴

家族会名称	最終学歴	性別			合計
		男性 度数 (%)	女性 度数 (%)	無回答 度数 (%)	
びわこ家族会	中学校	3 (37.5)	3 (10.3)	0 (.0)	6 (16.2)
	高等学校	3 (37.5)	12 (41.4)	0 (.0)	15 (40.5)
	短大・専門学校	0 (.0)	7 (24.1)	0 (.0)	7 (18.9)
	四年制大学以上	2 (25.0)	4 (13.8)	0 (.0)	6 (16.2)
	その他	0 (.0)	1 (3.4)	0 (.0)	1 (2.7)
	無回答	0 (.0)	2 (6.9)	0 (.0)	2 (5.4)
	合計	8 (100.0)	29 (100.0)	0 (.0)	37 (100.0)
愛知家族会	中学校	4 (25.0)	4 (14.8)	0 (.0)	8 (18.6)
	高等学校	7 (43.8)	12 (44.4)	0 (.0)	19 (44.2)
	短大・専門学校	0 (.0)	7 (25.9)	0 (.0)	7 (16.3)
	四年制大学以上	4 (25.0)	3 (11.1)	0 (.0)	7 (16.3)
	その他	0 (.0)	1 (3.7)	0 (.0)	1 (2.3)
	無回答	1 (6.3)	0 (.0)	0 (.0)	1 (2.3)
	合計	16 (100.0)	27 (100.0)	0 (.0)	43 (100.0)
茨城ダルク家族会	中学校	1 (7.1)	7 (19.4)	0 (.0)	8 (15.4)
	高等学校	3 (21.4)	17 (47.2)	1 (50.0)	21 (40.4)
	短大・専門学校	5 (35.7)	10 (27.8)	0 (.0)	15 (28.8)
	四年制大学以上	5 (35.7)	2 (5.6)	0 (.0)	7 (13.5)
	その他	0 (.0)	0 (.0)	0 (.0)	0 (.0)
	無回答	0 (.0)	0 (.0)	1 (50.0)	1 (1.9)
	合計	14 (100.0)	36 (100.0)	2 (100.0)	52 (100.0)
宇都宮家族会	中学校	3 (21.4)	4 (22.2)	0 (.0)	7 (21.2)
	高等学校	7 (50.0)	11 (61.1)	1 (100.0)	19 (57.6)
	短大・専門学校	1 (7.1)	2 (11.1)	0 (.0)	3 (9.1)
	四年制大学以上	3 (21.4)	1 (5.6)	0 (.0)	4 (12.1)
	その他	0 (.0)	0 (.0)	0 (.0)	0 (.0)
	無回答	0 (.0)	0 (.0)	0 (.0)	0 (.0)
	合計	14 (100.0)	18 (100.0)	1 (100.0)	33 (100.0)
仙台ダルク家族会	中学校	1 (14.3)	1 (7.7)	1 (100.0)	3 (14.3)
	高等学校	1 (14.3)	8 (61.5)	0 (.0)	9 (42.9)
	短大・専門学校	1 (14.3)	2 (15.4)	0 (.0)	3 (14.3)
	四年制大学以上	4 (57.1)	2 (15.4)	0 (.0)	6 (28.6)
	その他	0 (.0)	0 (.0)	0 (.0)	0 (.0)
	無回答	0 (.0)	0 (.0)	0 (.0)	0 (.0)
	合計	7 (100.0)	13 (100.0)	1 (100.0)	21 (100.0)
家族会合計	中学校	12 (20.3)	19 (15.4)	1 (25.0)	32 (17.2)
	高等学校	21 (35.6)	60 (48.8)	2 (50.0)	83 (44.6)
	短大・専門学校	7 (11.9)	28 (22.8)	0 (.0)	35 (18.8)
	四年制大学以上	18 (30.5)	12 (9.8)	0 (.0)	30 (16.1)
	その他	0 (.0)	2 (1.6)	0 (.0)	2 (1.1)
	無回答	1 (1.7)	2 (1.6)	1 (25.0)	4 (2.2)
	合計	59 (100.0)	123 (100.0)	4 (100.0)	186 (100.0)

表3. 対象者の婚姻状況

家族会名称	婚姻状況	性別			合計 度数 (%)
		男性 度数 (%)	女性 度数 (%)	無回答 度数 (%)	
びわこ家族会	既婚	6 (75.0)	19 (65.5)	0 (.0)	25 (67.6)
	同棲	0 (.0)	1 (3.4)	0 (.0)	1 (2.7)
	別居	1 (12.5)	1 (3.4)	0 (.0)	2 (5.4)
	未婚	1 (12.5)	2 (6.9)	0 (.0)	3 (8.1)
	離婚	0 (.0)	2 (6.9)	0 (.0)	2 (5.4)
	死別	0 (.0)	3 (10.3)	0 (.0)	3 (8.1)
	無回答	0 (.0)	1 (3.4)	0 (.0)	1 (2.7)
	合計	8 (100.0)	29 (100.0)	0 (.0)	37 (100.0)
愛知家族会	既婚	12 (75.0)	21 (77.8)	0 (.0)	33 (76.7)
	同棲	0 (.0)	0 (.0)	0 (.0)	0 (.0)
	別居	0 (.0)	0 (.0)	0 (.0)	0 (.0)
	未婚	1 (6.3)	0 (.0)	0 (.0)	1 (2.3)
	離婚	0 (.0)	3 (11.1)	0 (.0)	3 (7.0)
	死別	1 (6.3)	3 (11.1)	0 (.0)	4 (9.3)
	無回答	2 (12.5)	0 (.0)	0 (.0)	2 (4.7)
	合計	16 (100.0)	27 (100.0)	0 (.0)	43 (100.0)
茨城タルク家族会	既婚	12 (85.7)	30 (83.3)	0 (.0)	42 (80.8)
	同棲	1 (7.1)	1 (2.8)	0 (.0)	2 (3.8)
	別居	0 (.0)	0 (.0)	0 (.0)	0 (.0)
	未婚	0 (.0)	0 (.0)	0 (.0)	0 (.0)
	離婚	0 (.0)	2 (5.6)	1 (50.0)	3 (5.8)
	死別	0 (.0)	3 (8.3)	0 (.0)	3 (5.8)
	無回答	1 (7.1)	0 (.0)	1 (50.0)	2 (3.8)
	合計	14 (100.0)	36 (100.0)	2 (100.0)	52 (100.0)
宇都宮家族会	既婚	10 (71.4)	15 (83.3)	1 (100.0)	26 (78.8)
	同棲	2 (14.3)	0 (.0)	0 (.0)	2 (6.1)
	別居	1 (7.1)	0 (.0)	0 (.0)	1 (3.0)
	未婚	0 (.0)	0 (.0)	0 (.0)	0 (.0)
	離婚	0 (.0)	1 (5.6)	0 (.0)	1 (3.0)
	死別	0 (.0)	1 (5.6)	0 (.0)	1 (3.0)
	無回答	1 (7.1)	1 (5.6)	0 (.0)	2 (6.1)
	合計	14 (100.0)	18 (100.0)	1 (100.0)	33 (100.0)
仙台タルク家族会	既婚	6 (85.7)	10 (76.9)	1 (100.0)	17 (81.0)
	同棲	1 (14.3)	0 (.0)	0 (.0)	1 (4.8)
	別居	0 (.0)	0 (.0)	0 (.0)	0 (.0)
	未婚	0 (.0)	0 (.0)	0 (.0)	0 (.0)
	離婚	0 (.0)	0 (.0)	0 (.0)	0 (.0)
	死別	0 (.0)	2 (15.4)	0 (.0)	2 (9.5)
	無回答	0 (.0)	1 (7.7)	0 (.0)	1 (4.8)
	合計	7 (100.0)	13 (100.0)	1 (100.0)	21 (100.0)
家族会合計	既婚	46 (78.0)	95 (77.2)	2 (50.0)	143 (76.9)
	同棲	4 (6.8)	2 (1.6)	0 (.0)	6 (3.2)
	別居	2 (3.4)	1 (.8)	0 (.0)	3 (1.6)
	未婚	2 (3.4)	2 (1.6)	0 (.0)	4 (2.2)
	離婚	0 (.0)	8 (6.5)	1 (25.0)	9 (4.8)
	死別	1 (1.7)	12 (9.8)	0 (.0)	13 (7.0)
	無回答	4 (6.8)	3 (2.4)	1 (25.0)	8 (4.3)
	合計	59 (100.0)	123 (100.0)	4 (100.0)	186 (100.0)

表4. 女性対象者の配偶者の職種

	家族会名称						合計					
	びわこ 家族会		愛知 家族会		茨城ダルク 家族会			宇都宮 家族会		仙台ダルク 家族会		
	度数	(%)	度数	(%)	度数	(%)		度数	(%)	度数	(%)	
専門的・技術的職業	4	(13.8)	2	(7.4)	4	(11.1)	1	(5.6)	3	(23.1)	14	(11.4)
管理的職業	3	(10.3)	5	(18.5)	4	(11.1)	2	(11.1)	2	(15.4)	16	(13.0)
事務従事者	1	(3.4)	0	(.0)	2	(5.6)	3	(16.7)	0	(.0)	6	(4.9)
販売従事者	3	(10.3)	1	(3.7)	2	(5.6)	0	(.0)	2	(15.4)	8	(6.5)
サービス業従事者	0	(.0)	0	(.0)	0	(.0)	0	(.0)	0	(.0)	0	(.0)
保安職業従事者	1	(3.4)	0	(.0)	1	(2.8)	0	(.0)	0	(.0)	2	(1.6)
農林漁業作業	0	(.0)	0	(.0)	3	(8.3)	2	(11.1)	0	(.0)	5	(4.1)
運輸・通信従事者	1	(3.4)	4	(14.8)	1	(2.8)	1	(5.6)	0	(.0)	7	(5.7)
生産工程・労務作業	2	(6.9)	5	(18.5)	5	(13.9)	2	(11.1)	0	(.0)	14	(11.4)
その他	3	(10.3)	1	(3.7)	0	(.0)	0	(.0)	0	(.0)	4	(3.3)
無職	2	(6.9)	1	(3.7)	8	(22.2)	5	(27.8)	3	(23.1)	19	(15.4)
無回答	9	(31.0)	8	(29.6)	6	(16.7)	2	(11.1)	3	(23.1)	28	(22.8)
合計	29	(100.0)	27	(100.0)	36	(100.0)	18	(100.0)	13	(100.0)	123	(100.0)

表5. 対象者と依存症者本人の続柄

続柄	性別			
	男性	女性	無回答	合計
	度数 (%)	度数 (%)	度数 (%)	度数 (%)
配偶者	0 (.0)	4 (3.3)	0 (.0)	4 (2.2)
内縁関係のパートナー	0 (.0)	1 (.8)	0 (.0)	1 (.5)
親子	56 (94.9)	113 (91.9)	3 (75.0)	172 (92.5)
兄弟姉妹	3 (5.1)	3 (2.4)	0 (.0)	6 (3.2)
その他	0 (.0)	1 (.8)	0 (.0)	1 (.5)
無回答	0 (.0)	1 (.8)	1 (25.0)	2 (1.1)
合計	59 (100.0)	123 (100.0)	4 (100.0)	186 (100.0)

表6. 本人が薬物使用を始めてから家族に発覚するまでの期間

期間	度数 (%)
1年未満	28 (20.4)
1-2年未満	7 (5.1)
2-3年未満	9 (6.6)
3-4年未満	11 (8.0)
4-5年未満	7 (5.1)
5-6年未満	5 (3.6)
6-7年未満	0 (.0)
7-8年未満	1 (.7)
8-9年未満	1 (.7)
9-10年未満	0 (.0)
10年以上	3 (2.2)
不明	65 (47.4)
合計	137 (100.0)
平均月数	28.9 (SD=34.8)

表7. 本人の薬物使用が家族に発覚した契機 (複数回答可)

	度数 (%)
薬物の使用現場や道具を発見	60 (43.8)
本人や友人から打ち明けられた	26 (19.0)
本人が逮捕され警察から連絡	18 (13.1)
受診を契機に医師から知らされた	12 (8.8)
その他	12 (8.8)
無回答	23 (16.8)
合計	137 (100.0)

表8. 依存症者本人の薬物問題に関して家族が初めて利用した関係機関(複数回答可)

関係機関	家族会名称					合計
	びわこ 家族会	愛知 家族会	茨城タルク 家族会	宇都宮 家族会	仙台タルク 家族会	
	度数 (%)	度数 (%)	度数 (%)	度数 (%)	度数 (%)	
医療機関	5 (17.9)	14 (45.2)	13 (31.0)	9 (45.0)	2 (12.5)	43 (31.4)
警察	4 (14.3)	7 (22.6)	9 (21.4)	2 (10.0)	7 (43.8)	29 (21.2)
保健所(保健センター)	4 (14.3)	4 (12.9)	7 (16.7)	9 (45.0)	3 (18.8)	27 (19.7)
依存症リハビリ施設	7 (25.0)	3 (9.7)	9 (21.4)	3 (15.0)	2 (12.5)	24 (17.5)
精神保健福祉センター	1 (3.6)	3 (9.7)	4 (9.5)	1 (5.0)	0 (0)	9 (6.6)
家族自助グループ	4 (14.3)	1 (3.2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (3.6)
民間相談機関	1 (3.6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (12.5)	3 (2.2)
その他	3 (10.7)	0 (0)	1 (2.4)	0 (0)	0 (0)	4 (2.9)
無回答	0 (0)	0 (0)	1 (2.4)	0 (0)	0 (0)	1 (0.7)
合計	28 (100.0)	31 (100.0)	42 (100.0)	20 (100.0)	16 (100.0)	137 (100.0)

表9. 家族が本人の薬物使用を確信してから初めて関係機関を利用するまでの期間

期間	度数 (%)
確信以前に利用	
3年以上	1 (0.7)
2-3年未満	2 (1.5)
1-2年未満	6 (4.4)
1年未満	5 (3.6)
確信以降に利用	
同時期	31 (22.6)
1年未満	13 (9.5)
1-2年未満	8 (5.8)
2-3年未満	8 (5.8)
3-4年未満	6 (4.4)
4-5年未満	0 (0)
5-6年未満	4 (2.9)
6-7年未満	5 (3.6)
7-8年未満	0 (0)
8-9年未満	2 (1.5)
9-10年未満	4 (2.9)
10年以上	10 (7.3)
未確信	20 (14.6)
不明	12 (8.8)
合計	137 (100.0)
平均月数	38.7 (SD=65.9)

表10. 家族会への紹介経路(複数回答可)

紹介機関	家族会名称						合計					
	びわこ 家族会		愛知 家族会		茨城タルク 家族会			宇都宮 家族会		仙台タルク 家族会		
	度数	(%)	度数	(%)	度数	(%)		度数	(%)	度数	(%)	
医療機関から	3	(10.7)	9	(29.0)	8	(19.0)	5	(25.0)	6	(37.5)	31	(22.6)
警察から	0	(.0)	0	(.0)	1	(2.4)	2	(10.0)	2	(12.5)	5	(3.6)
保健所(保健センター)から	0	(.0)	0	(.0)	2	(4.8)	1	(5.0)	3	(18.8)	6	(4.4)
依存症リハビリ施設から	8	(28.6)	9	(29.0)	3	(7.1)	4	(20.0)	2	(12.5)	26	(19.0)
精神保健福祉センターから	0	(.0)	2	(6.5)	3	(7.1)	3	(15.0)	1	(6.3)	9	(6.6)
自助グループから	7	(25.0)	3	(9.7)	3	(7.1)	0	(.0)	0	(.0)	13	(9.5)
民間相談機関から	0	(.0)	1	(3.2)	0	(.0)	0	(.0)	0	(.0)	1	(.7)
知人友人から	5	(17.9)	5	(16.1)	6	(14.3)	0	(.0)	0	(.0)	16	(11.7)
メディアを通じて	5	(17.9)	1	(3.2)	10	(23.8)	4	(20.0)	1	(6.3)	21	(15.3)
講演を通じて	0	(.0)	0	(.0)	2	(4.8)	0	(.0)	1	(6.3)	3	(2.2)
その他	2	(7.1)	1	(3.2)	3	(7.1)	0	(.0)	2	(12.5)	8	(5.8)
無回答	0	(.0)	1	(3.2)	1	(2.4)	1	(5.0)	0	(.0)	3	(2.2)
合計	28	(100.0)	31	(100.0)	42	(100.0)	20	(100.0)	16	(100.0)	137	(100.0)

表11. 家族が本人の薬物使用を確信してから家族会に参加するまでの期間

期間	度数	(%)
確信以前に参加	1-2年未満	1 (.7)
	1年未満	2 (1.5)
確信以降に参加	同時期	11 (8.0)
	1年未満	15 (10.9)
	1-2年未満	13 (9.5)
	2-3年未満	10 (7.3)
	3-4年未満	8 (5.8)
	4-5年未満	2 (1.5)
	5-6年未満	5 (3.6)
	6-7年未満	4 (2.9)
	7-8年未満	7 (5.1)
	8-9年未満	2 (1.5)
	9-10年未満	7 (5.1)
	10年以上	23 (16.8)
	不明	27 (19.7)
合計		137 (100.0)
平均月数		70.2 (SD=80.1)

表12. 家族が初めて関係機関を利用してから家族会に参加するまでの期間

期間	度数	(%)
関係機関利用と同時期	22	(16.1)
1年未満	30	(21.9)
1-2年未満	19	(13.9)
2-3年未満	10	(7.3)
3-4年未満	9	(6.6)
4-5年未満	6	(4.4)
5-6年未満	4	(2.9)
6-7年未満	4	(2.9)
7-8年未満	4	(2.9)
8-9年未満	4	(2.9)
9-10年未満	2	(1.5)
10年以上	10	(7.3)
不明	13	(9.5)
合計		137 (100.0)
平均月数		37.6 (SD=52.3)



表13. 家族会への参加期間

期間	度数 (%)
1年未満	38 (27.7)
1-2年未満	32 (23.4)
2-3年未満	13 (9.5)
3-4年未満	13 (9.5)
4-5年未満	11 (8.0)
5-6年未満	4 (2.9)
6-7年未満	11 (8.0)
7-8年未満	2 (1.5)
8-9年未満	2 (1.5)
9-10年未満	2 (1.5)
10年以上	4 (2.9)
無回答	5 (3.6)
合計	137 (100.0)
平均月数	33.9 (SD=35.5)

表14. 薬物依存症者をもつ家族が経験する様々な困難

困難	有	無	無回答	合計
	度数 (%)	度数 (%)	度数 (%)	度数 (%)
1. 薬物使用をやめさせようと様々な努力をしたが上手くいかない。	151 (81.2)	28 (15.1)	7 (3.8)	186 (100.0)
2. 薬物使用のための道具や、薬物使用の現場を目撃した。	149 (80.1)	30 (16.1)	7 (3.8)	186 (100.0)
3. 本人が妄想・幻覚のため暴れたり、大声を出したり、奇妙な言動をした。	142 (76.3)	37 (19.9)	7 (3.8)	186 (100.0)
4. 本人の借金のために、繰り返し取り立てがあった。	124 (66.7)	53 (28.5)	9 (4.8)	186 (100.0)
5. 薬物使用が原因で、本人が深刻な体調不良に陥ったり、事故で怪我をした。	116 (62.4)	61 (32.8)	9 (4.8)	186 (100.0)
6. 金銭の要求を断ったり薬物をやめさせようと注意すると、本人が暴言・暴力をふる	106 (57.0)	71 (38.2)	9 (4.8)	186 (100.0)
7. 本人が家族の金銭、物品などを盗んだり勝手に持ち出した。	101 (54.3)	74 (39.8)	11 (5.9)	186 (100.0)
8. 本人が薬物使用で逮捕されたが、裁判の手続き・面会・保釈等で悩んだ。	95 (51.1)	78 (41.9)	13 (7.0)	186 (100.0)
9. 本人が刑務所から出所したとき、どう対応してよいかわからず混乱した。	90 (48.4)	83 (44.6)	13 (7.0)	186 (100.0)
10. 一緒に暮らすことに耐えられず、家を出るよう促しても本人が家を出て行かな	85 (45.7)	86 (46.2)	15 (8.1)	186 (100.0)
11. 本人を家に入れないようにしていたが、脅されたり、鍵や窓を壊して入られた。	41 (22.0)	130 (69.9)	15 (8.1)	186 (100.0)

表15-1. 日常経験する様々な困難な場面に対する、家族会参加後の家族の対応の変化(場面1-5)(複数回答可)

		参加以前 度数 (%)	参加以降 度数 (%)
<b>1. 薬物使用をやめさせようと様々な努力をしたが上手くいかない。</b>			
対応	叱る・説得する・交換条件を出すなど	103 (71.0)	14 (23.7)
	関係機関に相談	85 (58.6)	14 (23.7)
	警察に連絡	56 (38.6)	15 (25.4)
	冷静なときに治療について話し合う	60 (41.4)	15 (25.4)
	監視監督を強める	42 (29.0)	3 (5.1)
	家から出るよう促す	23 (15.9)	30 (50.8)
	家から出す(家族が出る)ことで距離をとる	27 (18.6)	24 (40.7)
	その他	3 (2.1)	0 (.0)
	無回答	1 (.7)	2 (3.4)
	合計	145 (100.0)	59 (100.0)
<b>2. 薬物使用のための道具や、薬物使用の現場を目撃した。</b>			
対応	取り上げる・捨てる・隠すなど	87 (62.1)	9 (14.1)
	叱る・説得する・交換条件を出すなど	98 (70.0)	15 (23.4)
	見てみないふり	28 (20.0)	7 (10.9)
	関係機関に相談	62 (44.3)	17 (26.6)
	警察に連絡	55 (39.3)	14 (21.9)
	冷静なときに治療について話し合う	54 (38.6)	21 (32.8)
	家から出るよう促す	21 (15.0)	29 (45.3)
	家から出す(家族が出る)ことで距離をとる	23 (16.4)	23 (35.9)
	その他	7 (5.0)	4 (6.3)
	無回答	0 (.0)	2 (3.1)
	合計	140 (100.0)	64 (100.0)
<b>3. 本人が妄想・幻覚のため暴れたり、大声を出したり、奇妙な言動をした。</b>			
対応	ただ途方に暮れた	65 (47.1)	3 (5.8)
	そのうちおさまると信じて我慢	44 (31.9)	3 (5.8)
	医療機関を受診	62 (44.9)	8 (15.4)
	関係機関に相談	59 (42.8)	15 (28.8)
	警察に連絡	55 (39.9)	11 (21.2)
	家から出す(家族が出る)ことで距離をとる	21 (15.2)	31 (59.6)
	その他	5 (3.6)	4 (7.7)
	無回答	1 (.7)	0 (.0)
	合計	138 (100.0)	52 (100.0)
<b>4. 本人の借金のために、繰り返し取り立てがあった。</b>			
対応	家族が肩代わり	97 (82.9)	12 (20.3)
	家族名義などの理由により家族が支払い	23 (19.7)	4 (6.8)
	家族に支払い意思がないことを本人・貸付先に明示	25 (21.4)	31 (52.5)
	弁護士や関係機関に相談	21 (17.9)	10 (16.9)
	ただ途方にくれた	10 (8.5)	0 (.0)
	その他	3 (2.6)	5 (8.5)
	無回答	1 (.9)	1 (1.7)
	合計	117 (100.0)	59 (100.0)
<b>5. 薬物使用が原因で、本人が深刻な体調不良に陥ったり、事故で怪我をした。</b>			
対応	精一杯看護	56 (49.6)	5 (10.9)
	放っておけず結局世話	71 (62.8)	9 (19.6)
	命に関わること以外は放置	10 (8.8)	32 (69.6)
	周囲への対応を家族が代行	72 (63.7)	7 (15.2)
	その他	3 (2.7)	2 (4.3)
	無回答	2 (1.8)	0 (.0)
	合計	114 (100.0)	47 (100.0)

表15-2. 日常経験する様々な困難な場面に対する、家族会参加後の家族の対応の変化(場面6-11)(複数回答可)

		参加以前 度数 (%)	参加以降 度数 (%)
対応	恐ろしいので言いなり	52 (51.5)	1 (2.5)
	負けずに対抗	43 (42.6)	4 (10.0)
	警察に連絡	31 (30.7)	11 (27.5)
	家族の安全を優先しただちに避難	31 (30.7)	12 (30.0)
	家から出す(家族が出る)ことで距離をとる	26 (25.7)	27 (67.5)
	その他	6 (5.9)	1 (2.5)
	無回答	1 (1.0)	1 (2.5)
	合計	101 (100.0)	40 (100.0)
<b>7. 本人が家族の金銭、物品などを盗んだり勝手に持ち出した。</b>			
対応	我慢しあきらめた	55 (59.1)	7 (17.9)
	警察に相談	9 (9.7)	2 (5.1)
	金銭管理を徹底	58 (62.4)	13 (33.3)
	家から出す(家族が出る)ことで距離をとる	9 (9.7)	19 (48.7)
	その他	5 (5.4)	2 (5.1)
	無回答	1 (1.1)	0 (0)
	合計	93 (100.0)	39 (100.0)
<b>8. 本人が薬物使用で逮捕されたが、裁判の手続き・面会・保釈等で悩んだ。</b>			
対応	面会・差し入れなど要求には出来るだけ応じた	59 (71.1)	3 (5.9)
	保釈手続きをとった	13 (15.7)	1 (2.0)
	家族が身元引受人になった	57 (68.7)	4 (7.8)
	家族は身元引受人を拒否した	9 (10.8)	31 (60.8)
	対応はなるべく弁護士や施設職員を通じて行った	10 (12.0)	32 (62.7)
	その他	3 (3.6)	3 (5.9)
	無回答	1 (1.2)	2 (3.9)
	合計	83 (100.0)	51 (100.0)
<b>9. 本人が刑務所から出所したとき、どう対応してよいかわからず混乱した。</b>			
対応	共同生活を受け入れた	47 (63.5)	3 (6.7)
	出所後はすぐ治療につなげた	21 (28.4)	24 (53.3)
	家から出す(家族が出る)ことで距離をとる	12 (16.2)	17 (37.8)
	その他	5 (6.8)	5 (11.1)
	無回答	2 (2.7)	0 (0)
	合計	74 (100.0)	45 (100.0)
<b>10. 一緒に暮らすことに耐えられず、家を出るよう促しても本人が家を出て行かない。</b>			
対応	ストレスを感じながら共同生活を継続	50 (69.4)	9 (20.5)
	共同生活は継続したが援助や世話はしない	12 (16.7)	12 (27.3)
	家から出す(家族が出る)ことで距離をとる	19 (26.4)	24 (54.5)
	その他	3 (4.2)	3 (6.8)
	無回答	0 (0)	0 (0)
	合計	72 (100.0)	45 (100.0)
<b>11. 本人を家に入れないようにしていたが、脅されたり、鍵や窓を壊して入られた。</b>			
対応	仕方なく共同生活を受け入れた	16 (64.0)	2 (7.4)
	断固拒否し再度家から出した	4 (16.0)	14 (51.9)
	警察に連絡	2 (8.0)	5 (18.5)
	家族が家を出た	6 (24.0)	13 (48.1)
	その他	0 (0)	0 (0)
	無回答	1 (4.0)	0 (0)
	合計	25 (100.0)	27 (100.0)

表16. 一般人口と女性対象者の日本語版SUBIの得点

	一般人口		対象者	
	平均 (SD)	n	平均 (SD)	n
満足感	5.6 (1.4)	918	5.4 (1.6)	121
達成感	5.0 (1.2)	933	5.6 (1.3)	118
自信	5.5 (1.3)	935	5.7 (1.4)	121
至福感	4.7 (1.2)	914	5.5 (1.4)	121
近親者の支え	6.1 (1.4)	933	6.0 (1.5)	119
社会的な支え	5.7 (1.5)	933	5.4 (1.7)	121
家族との関係	7.4 (1.3)	831	6.3 (1.7)	101
精神的なコントロール感	16.1 (2.6)	929	15.6 (3.4)	120
身体的不健康感	14.6 (2.1)	934	14.6 (2.5)	120
社会的なつながりの不足	7.7 (1.1)	934	7.8 (1.2)	121
人生に対する失望感	7.6 (1.3)	933	7.5 (1.5)	121
陽性感情	34.7 (5.7)	935	35.4 (6.3)	112
陰性感情	51.2 (5.7)	935	50.1 (7.6)	102

表17. 家族会参加期間別にみた対象者の日本語版SUBIの得点

	1年未満		2-3年未満		3-5年未満		5年以上	
	平均 (SD)	n	平均 (SD)	n	平均 (SD)	n	平均 (SD)	n
満足感	4.6 (1.5)	34	5.4 (1.51)	41	5.7 (1.5)	23	6.5 (1.2)	16
達成感	5.1 (1.3)	32	5.9 (1.39)	41	5.6 (1.1)	23	5.8 (1.3)	15
自信	5.1 (1.3)	34	5.7 (1.15)	41	6.1 (1.4)	23	6.4 (1.2)	16
至福感	4.9 (1.3)	34	5.5 (1.32)	41	6.0 (1.4)	23	6.2 (1.6)	16
近親者の支え	5.8 (1.6)	33	6.1 (1.73)	40	6.4 (1.4)	23	6.0 (0.8)	16
社会的な支え	4.9 (1.6)	34	5.6 (1.61)	41	5.8 (1.9)	23	5.6 (1.5)	16
家族との関係	5.5 (2.2)	30	6.6 (1.46)	34	6.7 (1.1)	18	6.5 (1.5)	15
精神的なコントロール感	15.5 (3.6)	33	15.2 (3.53)	41	15.7 (3.1)	23	15.7 (3.3)	16
身体的不健康感	14.0 (2.4)	33	14.6 (2.52)	41	14.8 (2.3)	23	15.3 (2.9)	16
社会的なつながりの不足	7.7 (1.3)	34	7.6 (1.28)	41	7.9 (1.0)	23	8.2 (1.0)	16
人生に対する失望感	7.1 (1.7)	34	7.4 (1.50)	41	7.8 (1.4)	23	7.9 (1.2)	16
陽性感情	32.0 (6.1)	30	36.0 (5.76)	39	37.4 (7.3)	23	37.8 (4.0)	14
陰性感情	48.5 (8.1)	30	49.7 (7.66)	34	52.1 (6.8)	18	51.4 (7.9)	15

表18. 依存症者本人の性別および年齢

年齢	性別			合計
	男性	女性	無回答	
	度数 (%)	度数 (%)	度数 (%)	度数 (%)
20才未満	5 (4.3)	2 (18.2)	0 (.0)	7 (5.1)
20-25才未満	17 (14.7)	5 (45.5)	0 (.0)	22 (16.1)
25-30才未満	32 (27.6)	2 (18.2)	0 (.0)	34 (24.8)
30-35才未満	32 (27.6)	0 (.0)	0 (.0)	32 (23.4)
35-40才未満	16 (13.8)	1 (9.1)	0 (.0)	17 (12.4)
40-45才未満	7 (6.0)	0 (.0)	0 (.0)	7 (5.1)
45-50才未満	4 (3.4)	0 (.0)	0 (.0)	4 (2.9)
50才以上	2 (1.7)	0 (.0)	0 (.0)	2 (1.5)
無回答	1 (.9)	1 (9.1)	10 (100.0)	12 (8.8)
合計	116 (100.0)	11 (100.0)	10 (100.0)	137 (100.0)
平均年齢	30.5 (SD=7.1)	23.6 (SD=5.7)		29.9 (SD=7.2)

表19. 依存症者本人の最終学歴

最終学歴	性別			合計
	男性	女性	無回答	
	度数 (%)	度数 (%)	度数 (%)	
中学校	63 (54.3)	7 (63.6)	0 (.0)	70 (51.1)
高等学校	38 (32.8)	2 (18.2)	0 (.0)	40 (29.2)
短大・専門学校	10 (8.6)	0 (.0)	0 (.0)	10 (7.3)
四年制大学以上	3 (2.6)	1 (9.1)	0 (.0)	4 (2.9)
在学中	1 (.9)	1 (9.1)	0 (.0)	2 (1.5)
無回答	1 (.9)	0 (.0)	10 (100.0)	11 (8.0)
合計	116 (100.0)	11 (100.0)	10 (100.0)	137 (100.0)

表20. 依存症者本人の主な使用薬物(複数回答可)

主な使用薬物	性別			合計
	男性	女性	無回答	
	度数 (%)	度数 (%)	度数 (%)	
覚せい剤	67 (57.8)	4 (36.4)	0 (.0)	71 (51.8)
有機溶剤	31 (26.7)	3 (27.3)	0 (.0)	34 (24.8)
大麻	8 (6.9)	0 (.0)	0 (.0)	8 (5.8)
MDMA	3 (2.6)	1 (9.1)	0 (.0)	4 (2.9)
ヘロイン	1 (.9)	0 (.0)	0 (.0)	1 (.7)
コカイン	3 (2.6)	0 (.0)	0 (.0)	3 (2.2)
処方薬	10 (8.6)	1 (9.1)	0 (.0)	11 (8.0)
市販薬	17 (14.7)	3 (27.3)	0 (.0)	20 (14.6)
その他	6 (5.2)	0 (.0)	0 (.0)	6 (4.4)
無回答	5 (4.3)	1 (9.1)	10 (100.0)	16 (11.7)
合計	116 (100.0)	11 (100.0)	10 (100.0)	137 (100.0)

表21. 本人のこれまでの依存症治療経験の有無

	有	無	無回答	合計
	度数 (%)	度数 (%)	度数 (%)	度数 (%)
依存症治療プログラムをもつ医療機関	46 (33.6)	80 (58.4)	11 (8.0)	137 (100.0)
依存症リハビリテーション施設	84 (61.3)	40 (29.2)	13 (9.5)	137 (100.0)
その他の依存症治療	33 (24.1)	83 (60.6)	21 (15.3)	137 (100.0)
上記いずれかの治療	95 (69.3)	29 (21.2)	13 (9.5)	137 (100.0)

表22. 家族が薬物使用を確信してから本人が依存症治療にいたるまでの期間

	度数 (%)
同時期またはそれ以前	18 (13.1)
1年未満	7 (5.1)
2年未満	5 (3.6)
3年未満	6 (4.4)
4年未満	3 (2.2)
5年未満	3 (2.2)
6年未満	4 (2.9)
7年未満	6 (4.4)
8年未満	1 (.7)
9年未満	2 (1.5)
10年未満	3 (2.2)
10年以上	9 (6.6)
不明	70 (51.1)
合計	137 (100.0)
平均期間	55.3 (SD=76.1)

表23. 依存症者本人の精神症状の有無とその発症年齢

	有	無	無回答	合計
	度数 (%)	度数 (%)	度数 (%)	度数 (%)
精神症状	81 (59.1)	19 (13.9)	37 (27.0)	137 (100.0)
発症年齢 20才未満	10 (12.3)	0 (.0)	0 (.0)	10 (12.3)
20-25才未満	31 (38.3)	0 (.0)	0 (.0)	31 (38.3)
25-30才未満	18 (22.2)	0 (.0)	0 (.0)	18 (22.2)
30-35才未満	8 (9.9)	0 (.0)	0 (.0)	8 (9.9)
35-40才未満	2 (2.5)	0 (.0)	0 (.0)	2 (2.5)
40-45才未満	1 (1.2)	0 (.0)	0 (.0)	1 (1.2)
45-50才未満	1 (1.2)	0 (.0)	0 (.0)	1 (1.2)
無回答	10 (12.3)	0 (.0)	0 (.0)	10 (12.3)
合計	81 (100.0)	0 (.0)	0 (.0)	81 (100.0)

表24. 依存症者本人の逮捕経験の有無、初回逮捕年齢および逮捕平均回数

		有	無	無回答	合計
		度数 (%)	度数 (%)	度数 (%)	度数 (%)
逮捕経験		72 (52.6)	49 (35.8)	16 (11.7)	137 (100.0)
初逮捕年齢	10-15才未満	1 (1.4)	0 (.0)	0 (.0)	1 (1.4)
	15-20才未満	12 (16.7)	0 (.0)	0 (.0)	12 (16.7)
	20-25才未満	26 (36.1)	0 (.0)	0 (.0)	26 (36.1)
	25-30才未満	24 (33.3)	0 (.0)	0 (.0)	24 (33.3)
	30-35才未満	2 (2.8)	0 (.0)	0 (.0)	2 (2.8)
	35-40才未満	3 (4.2)	0 (.0)	0 (.0)	3 (4.2)
	40-45才未満	1 (1.4)	0 (.0)	0 (.0)	1 (1.4)
	無回答	3 (4.2)	0 (.0)	0 (.0)	3 (4.2)
	合計	72 (100.0)	0 (.0)	0 (.0)	72 (100.0)
逮捕平均回数	1回	28 (38.9)	0 (.0)	0 (.0)	28 (38.9)
	2回	24 (33.3)	0 (.0)	0 (.0)	24 (33.3)
	3回	8 (11.1)	0 (.0)	0 (.0)	8 (11.1)
	4回	3 (4.2)	0 (.0)	0 (.0)	3 (4.2)
	5回	2 (2.8)	0 (.0)	0 (.0)	2 (2.8)
	6回	2 (2.8)	0 (.0)	0 (.0)	2 (2.8)
	無回答	5 (6.9)	0 (.0)	0 (.0)	5 (6.9)
	合計	72 (100.0)	0 (.0)	0 (.0)	72 (100.0)

表25. 依存症者本人の現在の居場所

	度数 (%)
依存症リハビリテーション施設	42 (30.7)
刑務所など司法機関で拘束状態	26 (19.0)
一人暮らし	15 (10.9)
実家で家族と生活	14 (10.2)
パートナー(とその子ども)と同居	8 (5.8)
病院(精神科)に入院	4 (2.9)
友人と同居	4 (2.9)
病院(一般科)に入院	0 (.0)
その他	6 (4.4)
不明	8 (5.8)
無回答	10 (7.3)
合計	137 (100.0)

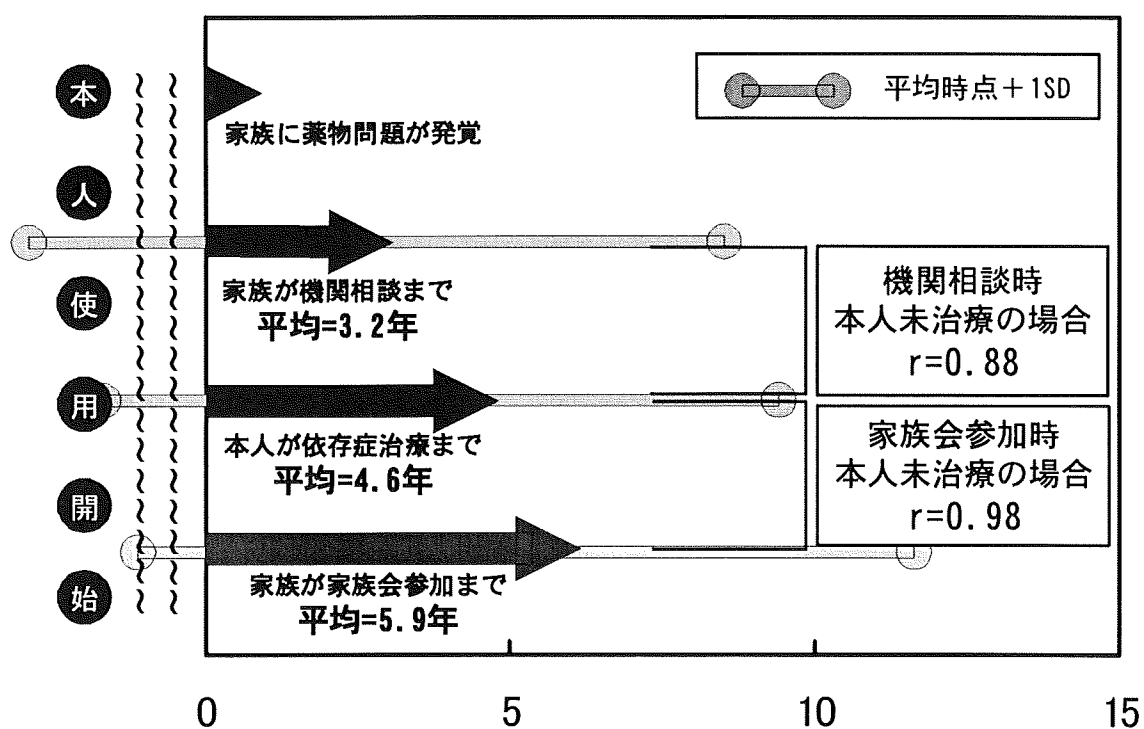
表26. 依存症者本人の現在の就業状況

	度数 (%)
無職	70 (51.1)
常勤(週35時間程度)アルバイト	14 (10.2)
非常勤アルバイト	6 (4.4)
常勤正社員	5 (3.6)
依存症のリハビリ施設スタッフ(無給)	3 (2.2)
依存症のリハビリ施設スタッフ(有給)	2 (1.5)
実家・親族の事業手伝い	1 (.7)
その他	2 (1.5)
不明	15 (10.9)
無回答	19 (13.9)
合計	137 (100.0)

表27. 依存症者本人の現在の薬物使用状況

	度数 (%)
しばらく使っていない	40 (29.2)
病院や刑務所に拘束されているので使っていない	30 (21.9)
ずっと使い続けている	5 (3.6)
1度止まったが、現在はまた使っている	2 (1.5)
まったくわからない	40 (29.2)
無回答	20 (14.6)
合計	137 (100.0)

図1. 家族に薬物問題が発覚してから、本人が初めて依存症治療に至るまでの家族の経緯





(別掲6)

## 研究成果の刊行に関する一覧表

## 書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体 編集者名	書籍名	出版社 名	出版地	出版 年	ペー ジ
なし							

## 雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻	ページ	出版年
和田 清 高橋伸彰	中学生の飲酒と家族・仲間	日本アルコール関連 問題学会雑誌	7	63-66	2005
和田 清	特集 青少年の危険行動の防 止 薬物乱用	学校保健研究	47	389-396	2005
尾崎 茂, 和田 清	Severity of Dependence Scale (SDS) の有用性につい てー 「全国の精神科医療施設 における薬物関連精神疾患の 実態調査」における使用経験 からー	Jpn. J. Alcohol & Drug Dependence	40	126-136	2005
尾崎 茂	Methylphenidateの薬理, 乱用 と依存	臨床精神薬理	8	891-898	2005
尾崎 茂, 和田 清	メチルフェニデート乱用・依 存の現状 オピニオン・メチ ルフェニデートの有用性と有 害性をめぐって	精神医学	47	595-597	2005

平成17年度厚生労働科学研究費補助金  
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)

薬物乱用・依存等の実態把握と  
乱用・依存者に対する対応策に関する研究  
(H17-医薬-043)

研究報告書

主任研究者：和田 清（国立精神・神経センター 精神保健研究所）

2006年3月31日 発行

